

米製兵器維持費 2兆700億円

20～30年間試算 防衛予算を圧迫

防衛省が米国防政府の対外有償軍事援助（FMS）を利用して導入、あるいは導入を予定している戦闘機「F35A」など五種の兵器だけで、廃棄までの二十～三十年間の維持整備費が二兆七千億円を超えることが同省の試算で分かった。同省は二〇一九年度のFMSによる維持整備費に千七百五十億円を見込んでいるが、F35Aなどの本格的な配備はこれからで、将来的に年間の維持整備費が大幅に増え、防衛予算を圧迫していく。

（「税を追う」取材班）＝国産にしろ寄せ◎面

戦闘機など5種

日本などの同盟国がFMSを利用して米国から兵器を購入する際、米国政府は最新技術の流出を避けるため、秘密性が高い部分の修理整備はFMSに基づき、

このほか購入費が高い輸送機「オスプレイ」（十七機）▽無人警戒機「グローバルホーク」（三機）▽早期警戒機「E2D」（六機）▽地上配備型迎撃システム「イージス・アショア」（二基）は、二十～三十年間の維持整備費計約一兆四千三百億円がかかる。

| 機種 | 数量 | 導入費 | 2017年度から30年間で | 2017年度から30年間で |
|-----------|-----|--------|---------------|---------------|
| F35A | 42機 | 5965億円 | 約429億円 | 1兆2877億円 |
| オスプレイ | 17機 | 1681億円 | 約219億円 | 4394億円 |
| E2D | 6機 | 1471億円 | 約275億円 | 5504億円 |
| グローバルホーク | 3機 | 574億円 | 約122億円 | 2449億円 |
| イージス・アショア | 2基 | 2679億円 | 約66億円 | 約2000億円 |

主なFMS兵器の購入費と維持整備費

大きく膨らむ。整備や技術指導を担う米国防政府の技術者が日本に滞在するに際し、その渡航費や人件費は日本側が「技術

既に配備されているのはF35Aの九機だけで、配備が進む、これに維持整備費は

高級車購入と同じ

防衛装備庁プロジェクト管理部の話、FMSで購入するような高性能の装備品は、高級車を買った

際に維持費がかさむのと同じだ。今後、さらにFMSの維持整備費が上昇する傾向にあるのは間違いなく、国産装備品にしろ寄せが及ばないような装備政策を立ててい

支費」として支払う。米から取り寄せる部品も高額なため、輸入兵器の維持整備費は、国内で調達するより割高になる。国産・輸入両方の高額兵器の購入費は複数年度で支払うことができ、二年目以降が後年度負担（ローン残高）と呼ばれる。二二年度まで二兆円前後で推移していた兵器ローン残高は、安倍政権による米国防政府の導入拡大で急増。一九年度予算で約五兆三千四百億円に達する見込み。さらに今後FMSによる維持整備費が膨らめば、兵器ローンの増加に、歯止めがかからなくなる恐れがある。

